

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370101455		
法人名	医療法人 金澤会		
事業所名	グループホーム「あおばの家」		
所在地	〒860-8515 熊本市西区島崎2丁目29-5 (電話)096-324-0537		
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果市町村受理日	平成26年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成26年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1:各ユニット入居者数が6名でゆったりとした、きめ細かいサービス提供ができています。 2:3ユニットあるため、ユニット間での交流、地域の方々とは話ずよう縁側交流がある。 3:地域運営推進会議は定期的に開催し、内容的には充実しており地域の方々の理解を得ている。家族会、防火訓練にも参加頂いている。 4:年に2回の町内一斉清掃に、利用者の方々と共に参加し、地域の方々とのコミュニケーションが取れている。また地域の方々から御礼の言葉も頂いている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1棟6名づつ入居者が3棟、一つの敷地内に肩を寄せあって建っている。フェンスに囲まれた敷地には小さな畑もあり、プロコリヤーが蓄を沢山付け、シンボルツリーの金柑には沢山の果がみのり、小鳥たちの集う場所にもなっている。其々の棟から外に出ると、庭が社交場になり、同じようですれすれ異なるホームの雰囲気や状況から、一体化した「あおばの家」の住民としての笑顔が見られた。尚、ホームは毎年、家族へのアンケートを取っており、家族会もグループホーム「あおばの家」の住民として地域の活動に参加。ホームの住民を「家族」として捉え、日々の暮らしを支える工夫が、利用者の居室やリビング、そして年間の行事などから伺い知ることができた。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・新人オリエンテーション時に説明し、朝礼の場で唱話することで浸透を図っている。 ・職員証明書(名札)ケースの裏に理念を入れていつでも確認し、日々のケアに活かしている。 ・職員への指導の際、理念を説明しケアに活かせるようにしている。 	<p>理念は、利用者個別のペースに合わせてその人らしい生活空間が保てるように接し、家族の想いを受け止め、笑顔と安心のある暮らしを提供することとしている。14年前の開設当時から入居者と職員も居り、となり近所・地域とは馴染みの関係ができており、笑顔と安心のある暮らしを提供するという理念がそのまま生かされている。</p>	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・隣近所の八百屋、花屋、米屋、スーパー等を利用している。 ・町内ゴミ捨て場の清掃当番、一斉清掃に入居者と一緒に参加している。 ・コミュニティセンターでの催し物(文化祭等)に積極的に参加、出品し、レクリエーションの場としても活用している。 ・町内のグランドゴルフ大会には入居者と共に応援に行っている。 ・地域運営推進会議のメンバーの方々には防火訓練に参加していただいている。 	<p>職員と地域住民は、すっかり顔なじみ。散歩時の挨拶や買い物、町内の行事に参加し、血圧測定やゴミ出し場の清掃に協力するなど、入居者との交流も多く、ホームは地域住宅の一軒としての存在が確立している。また、「あおばの家」の餅つき大会や防火訓練への参加を呼びかけ、双方向の交流が続いている。尚、城西・花園・池田の三校区内の医療機関と介護事業所・包括支援センター、地域役員が研修懇談会を通して、幅広い交流を行っており、地域の一員としての交流が実施されている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・当法人開設の他の事業所と協力して、認知症サポーター養成講座などを通し、地域の人々と共に認知症を支える活動をしている。 ・城西・花園・池田校区内の医療機関、事業所、地域包括支援センター、地域の役員の方々とメンバーとする研修懇談会に参加し、地域の人々に理解していただいている。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的開催し、利用者の家族、地域の関係者から要望・助言を頂き、サービスの質の向上に努めている。 ・会議の結果をホールに<ご報告書>として掲示している。 ・あおばの家での行事(防火訓練、もちつき大会等)に参加してもらい意見を頂いている。 ・入退去の状況の報告を行っている。 ・ご家族からのアンケートの結果を報告し満足度の向上に向けて助言を頂いている。 	<p>推進会議では、ホームの行事の様子や入所者の表情など、まずビデオの映像を見て貰うことで、家族に安心して貰い、入退去の状況や会計報告など、経営収支の報告も行われている。会ではビデオを見て打ち解けた推進委員や家族から、様々な意見やアイディアが出され、サービスの質向上に活用されている。なお、家族へ「職員に対するアンケート」調査が実施され、結果報告も実施されているが、毎年設問が同じことからか、回答率が少なくなっており、次回から設問の内容を変えて見るなどの工夫も必要と思われた。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターと、入居申し込みに関する事や通所介護の利用状況などの情報交換を行っている。 ・市高齢介護福祉課からのアンケート等に協力している。 ・市の保護課との連携を図っている。 ・介護相談員の受入れを行い、結果をサービス向上に活かしている。 	熊本市の介護相談員の訪問が毎月あり、職員に言えない事も伝えられる「機会」として利用者に活用され、事業者もサービス向上の情報源として、相互の活用が行なわれている。また、生活保護等、個別指導もあり、制度活用について地域包括支援センターとの情報交換や協力体制が十分に図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・「身体拘束をしない！」を原則に、各居室の鍵もなく、自由に行動できる環境を作っている。 ・法人内での身体拘束に関する勉強会に参加している。 ・法人内外の認知・抑制委員からの調査を受け、良い評価を受けている。 	「身体拘束はあり得ない」がモットー。玄関も居室も鍵はなく、入居者は自由に行動を取っている。庭で日向ぼっこをしていて、そのまま外に出掛ける人には、1. 2. 3号館との連携プレーで声掛けし、後ろに付き、そっと見守る体制が取られている。したい事をしたい時にできるように見守り、言葉による制御をせず、利用者の気持ちを大切にしたい対応がみられた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修会受講時の情報及び新聞、ニュース等から得た情報を定期的に勉強会で全職員に周知徹底し防止に努めている。 ・利用者の表情、言動、皮膚等の状態観察を実施している。 ・職員のストレス防止の為に面談や懇親会等の福利厚生を活用したりリフレッシュを図っている。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内での勉強会、外部研修会などに参加し、他職員への情報提供を行い、活用できるように支援している。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に、十分な時間を取り分かり易く説明し、不安や疑問等を解消した後に契約を行っている。 ・入居者が重度化した時の指針の内容についても説明し、理解・納得を図っている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・「ご家族との集い」での茶話会での情報交換やアンケートの結果についてを検討し、運営に反映させ、文章にてご家族に報告している。アンケートは直接上司へ郵送していただくよう封筒に切手を貼って準備している。 ・玄関に「ご意見箱」を設置している。 	「家族会」があり、昼間の集いが年2回、年に一回は夜にも開催。多くの家族が集えるように工夫されている。また、OB会へも招待状が出されており、食事も準備され、交流のための出し物は、毎回、利用者・家族共に盛り上がり、楽しい企画となっている。家族会を通して、家族間の仲が良くなるなど横の繋がりが出来、意見の聴き取りも良好だが、それでも発言が難しい人のために、理事長宛での封筒を用意し、直接意見が述べられるように「意見箱」の設置もみられた。	近年、アンケートへの協力が少なくなっているとの事。取り方、設問の項目設定などを見直す良い機会と考えます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のあおばの家会議及び各館のミーティング、臨時の合同ミーティングにて、運営の状況報告を行い、職員の意見や提案を聞いている。 ・理念・方針・処遇などについて職員に意識調査を行い、その結果についても検討し反映させている。 	法人全体では500人を超す職員がおり、全職員に「満足・不満足調査」を実施。パワハラ、有給休暇の消化・処遇についてなど、無記名で率直な意見を汲み上げている。なお、調査結果は全て公開され、次年度の事業計画に反映される。更に、職員のレベルアップを図り、外部研修会への参加や同業者との情報交換・学習会を開催するなどが実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・H25年10月より、勤務形態の変更と職員の増員を実施し職場環境を整備した。 ・自己目標を立て、目標達成できるように、管理者からの助言、指導及び法人からのバックアップがある。 ・目標達成に応じた人事考課を行い、職員のモチベーションアップなどに繋げている。 ・労働時間も守られている。超過勤務の場合は、事前に所属長からの指示若しくは本人の申出により実施している。 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は定期的及びフォローアップ研修に参加しており、研修報告を通して、他の職員への情報提供、共有を図っている。 ・外部研修等についても、個人の希望を重視し、積極的に参加するよう、又偏った職員の参加にならないように配慮している。 ・資格取得への推奨によりケアの質の向上を図っている。 ・当法人の老人保健施設や在宅サービス部で構成する地域医療福祉センターで研修会を実施し、より身近な内容の研修を積極的に受けてもらい本人のレベルアップと自信に繋げている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・市の「グループホーム連絡協議会」・「県宅老所・グループホーム連絡会」に参加し、意見交換や勉強会をすることでサービスの質の向上に努めている。 ・城西・花園・池田地域「医療介護福祉空間に関する研修懇談会」に参加し、他事業所、地域住民との交流、意見交換会に参加している。 		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・体験入所の際、関係事業所からの情報を元に、不安なく入所戴けるようにしている。 ・本人の居場所(精神面でも)作りを積極的に行っている。 		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に住居内の見学や説明を受ける事ができ、安心されるように努めている。 ・ゆっくりと時間を取り、本人、家族の方が安心して話していただける様な雰囲気を作り、聴き取りを行っている。 ・本人が入居された後の家族の精神面のフォローをスタッフ全員で行っている。 		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・申し込み時に十分な意見や相談を聞き、担当ケアマネジャーと改めて相談して戴く様に勧めている。 ・グループホームに入居される事で、本人・家族にどのようなメリットがあるのか、十分検討を行い実施している。 		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の入居前の様子等を把握し、話題にして話し合う時間を設け、本人との信頼関係を築けるよう努力している。 ・食事作り、野菜作りなどを協力しながら共に行い、楽しく過ごして戴けるよう職員も一緒に楽しんでいる。 ・本人の娘や息子の嫁、若いスタッフは孫の様に、愛情をもって接するよう心掛けている。 		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・「ご家族の集い」時に機会を設け、相談を受けたり、思いを伝えてもらっている。 ・面会時にご家族の気持ちを聞くことは勿論、スタッフ側からもご本人の生活状況等をもっと情報提供し、より一層の信頼関係を築くようにしている。 ・行事(屋外レク)などは家族に参加を呼びかけ、一緒に参加して頂いている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の方と気軽に外出できるよう、又気軽に訪問して頂けるような声掛け、雰囲気作りに努めている。 ・友人の訪問があった場合は、関係継続に協力している。 	<p>家族との外出やスタッフとお出かけは、地域のスーパーへ買い物・美容室の利用、フードパル・城彩苑や島田美術館、うどん屋さんに立ち寄るなど、行動は地域住民の一人。馴染みの場所と人に出会うことで、落ち着きのある暮らしへの自信となっている。家族の訪問が難しい時は夜間に家族会を開いて心の安定を図るなど、利用者目線での対応が安心した暮らしの基礎になっているようだ。</p>	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々に合わせた役割分担を明確にし、孤立や利用者同士の摩擦が生じないように配慮している。 ・同じ趣味を持つご利用者には、一緒に作業(レクリエーション)をして頂き、コミュニケーションが取りづらいご利用者にはスタッフが間に入り話題の共有を図っている。 		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族に「地域運営推進会議」の委員やピアノ演奏での歌唱のボランティアに来て頂いている。 ・催し物への参加、呼び掛けを郵送し、希望があれば自由に参加して頂けるような体制としている。 		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人のその日の行動、言動、表情を見極め、変化があれば検討し対応している。 ・ご本人の毎日の生活支援の中での読み取りや、家族の面会時に聴く等把握に努めている。 ・希望があれば家族と相談し、定期的に外出、外泊を行っている。 	<p>事務所には利用者の基本情報が記載された個人台帳があり、入所以来の日々の記録が残されている。重度化する前に聴き取った、暮らしへの希望・要望、好きなモノ・嫌いなモノ、意向が把握され、表情や目の動きからでも、気持ちの把握が可能なまでの関係作りが構築されている。それでも、家に帰ってみたいという気持ちに応え、日帰り・外泊支援にも対応されている。</p>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・フェイスシートを作成し活用している。 ・個々の趣味・特技・興味など一覧表を作成し、日常の生活に活かしている。 ・入居時には、ご本人の使い慣れた家具、寝具等を持参頂き、今までの家庭での生活環境を維持していかれるよう努めている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の介護計画を把握し、細かい状況をサービス実施表や記録紙、業務申し送りシートに記入し把握している。 ・サービス計画及び実施表、業務申し送りシートなどを活用し、職員個々が現状の把握に努めている。 ・3館合同の朝礼で情報の共有を図っている。 		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご本人・家族が参加する担当者会議等を利用し、プランに反映させている。 ・ご本人にとって、又は本人の気持ちはどうなのか？を常に考え介護計画を作成している。 ・遠方の家族には、郵送や電話で情報交換を行い、作成したプランは郵送している。 ・必要な時は、他部署の意見も貰い、利用者にとってよりよいケアが出来るよう努力している。 	日々の暮らしをどのように支えていくか・・・介護計画は重要で、一人ひとりの「今」を把握し、職員全員でプランの見直しを実施。変化がない様に見える利用者についても、皆で意見を出し合うと、新しい発見や意向の把握に繋がる。本人・家族との話し合いを大切に、看護と介護の両面からの支えを重要視している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・介護日誌にサービス計画書を綴り、日誌記入時は目を通して記録するようにしている。 ・ケアプランのサービス内容の充実と問題に対する考えや方法を小まめに記入するようにし、また、月1回評価していきながら介護計画の実践や見直しに活かすようにしている。 		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・自由な時間に面会できるようにしている。 ・外泊・外出等に応じた支援をしている。 ・看取りケアについて指針に準じ、本人・ご家族の要望に添って行っている。 		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの導入が継続的に行われている。 ・年2回の防火訓練には、消防署からのアドバイス・指導、及び地域運営推進会議の委員方の参加も頂いている。 ・医療が必要となった場合、家族の希望に応じて訪問看護の支援がなされる場合がある。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、理事長(主治医)の診察を実施し、その他受診が必要な場合は、FAX連絡、又はTEL後外来受診を行っている。 ・急変時は夜間も緊急連絡マニュアルに沿って理事長、及び院長との連絡を実施している。 ・年に1回のバースデー検査も実施している。 ・かかりつけ医とは常に連絡が取れる状態で変化時には指示を受けている。 	法人の理事長が主治医で、毎月定期の診察があり、入居者の中には楽しみに待つ人も。理事長の自宅がホームの裏手で、緊急時も安心となっている。また、入居者の誕生日に「バースデー検査」として基本調査が実施され、健康には特に注意が払われている。歯科検診は必要に応じて訪問診療を依頼。家族への状況報告もこまめに対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師の配置があり、相談できる。 ・定期的な健康診断を実施している。 ・法人内、及び地域の病院の看護師に相談・指示を仰ぎ連携を取っている。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院された場合、安心されるよう職員は定期的に顔を出し、精神的フォローに努めている。 ・病院関係者との情報交換を密にし、病院からの試験外出や、試験外泊を実施し、早期退院に努めている。 ・家族との情報交換も欠かさない。 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期ケアの基準やフローチャートに基づき、カンファレンスを行い、情報の共有と意識の統一を図っている。 ・ケアプラン作成時、方針や考えが変化していないか、その都度家族へ確認をし、また重度化や終末期が予想される段階で主治医の指示の元、再度説明や確認をしている。 ・必要時は、勤務体制の調整も行うようにしている。 	入所時(契約時)に、重度化した際の指針提示にサインを得ているが、本人の意向も家族の意向も変化することがあり、ケアプラン見直し時に家族との話し合いが持たれ確認されている。入居者で病気をし病院入院となっても、退院後の帰る家は「あおばの家」と、安心を得ている。104歳で骨折入院するも退院し、現在、105歳を迎えお元気。看取りについては理事長が心ゆらいでいる家族へ状況説明を行い、理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内での勉強会やホーム独自の緊急マニュアルによる勉強会を実施、周知している。 ・急変時の応急手当や初期対応の訓練の充実化を図っている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃より地域住民の方々とのコミュニケーションを大切にし、災害時には協力頂けるよう心掛けている。 ・「地域運営推進会議」の委員の方の参加を頂き、地域の方々の協力が得られるようにしている。 	<p>防火訓練では運営推進委員さんも参加。自治会長や家族に偽装利用者を体験して貰い、担架に乗る経験や緊迫した雰囲気を感じてもらっている。スプリンクラーポンプの停止ボタンの位置確認、消火器の安全な運び方など、報告書からも緊迫した雰囲気が感じられた。ただ、避難先が庭先に設定されており、実際に火災や地震等に遭遇した場合は、庭が安全な場所と言えるのか想像し、庭以外の避難場所(母体病院ロビーや駐車場など)を考えてみるのも良いと思われた。尚、島崎周辺は井芹川を始め用水路があり、集中豪雨等の水害への備えも必要と考える。災害時の避難場所まで利用者と歩き、必要な時間を把握しておくことも大切で、訓練終了後の運営推進会議の成果に期待された。</p>	<p>入居者の避難を確認した居室は、廊下から一目で分かる印があると良いと思われた。(ネームプレートを裏返しにする。「済み」のマークを付ける等)</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報やプライバシーに関する指針を掲示し、職員の意識付けを図っている。 ・個人情報を外部へ漏らすことは一切無い。 ・個人の思いを汲み取り、柔軟な対応に心掛けている。 	<p>ホームの歴史と同時に入居者も高齢化し、出来ない事が増え、細かい所への気配りが必要になっている。女性の入居者が多い中、男性の利用者が他の利用者たちの「大黒柱」として、入浴・食事の対応など最初の声掛けが行われるなど、世代の男性評価に沿った対応も見られた。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の生活暦を把握し、それらを活かした声掛けをしている。 ・一人一人に合わせた説明や声掛けをし、同意を得た上で行動して頂いている。 ・ご本人の拒否等がある場合は保留、中止、延期等対処する。 ・買い物や散歩等、行動の中から思いや希望を読み取り支援している。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・全体行事等本人の意思を第一にし参加頂いている。意思決定ができない場合はその方の生活ペースを重視し、無理の無い過ごし方を考え配慮している。 ・行動として示されない方についても、思いへの洞察力を養い支援している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と相談しながら、ご本人の好みの衣服を選んで意向確認の上支援している。 ・理・美容は、行き付けの店に行き、家族の希望を組み入れている。 ・外出困難な方は、業者に来て頂いている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・体調に合わせたメニューや季節感を感じさせる食材の選択、誕生会や行事食も取り入れている。 ・食材切り、皮むき、味見、配膳、台拭き、片付け等、利用者一人一人が出来る事を出来る範囲内で無理なくやって頂いている。 ・昼食、夕食は、職員も一緒に食事している。 ・一人一人の体調に合わせたメニューや飲み込み、噛む力等に合わせた調理法や盛り付けに工夫している。 	メニューをみると、3つの棟がそれぞれに異なった献立となっており、それぞれに、出来る人が出来ることをしながら食事の準備が整えられている。近くのスーパーに買い物に行くのも、材料を洗ったり刻んだり、配膳したりするのも自主的。無理せず日常の家事が分担されているように見られた。一緒に食事する職員が「美味しいね」「ちょっと硬いね」と感想を言い合い、「食を共有」することの笑顔が入居者に見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食べる量は個別に工夫し、栄養バランスは半年に一度、栄養チェックをしてもらっている。水分量も毎食時、おやつ時、入浴後と確実に飲用して頂いている。 ・状態に応じ、水分量のチェックを行っている。 ・水分補給がスムーズに出来ない方は、ゼリーなどに変更して摂取して頂いている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアの介助の必要な方、自立できる方を把握し、毎食後、一人一人に応じた援助をしている。 ・義歯は消毒を徹底している。 		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・サインを見逃さないようにトイレへ誘導し、失禁やおむつ内排泄が少なくなるよう努めている。 ・排泄コントロールを留意し、薬、食べ物、運動等でスムーズな排泄ができるよう排泄チェック表を活用してトイレ誘導をし、失禁等少なくなるように努めている。 	生活リハビリに力をいれた支援が行われ、入居前におむつ利用だった人も排泄自立となり、家族もビックリ。チェック表を基に、一人ひとりのサインを見ながら、トイレ誘導が行われ、昼間は布パンツ、夜はパットを利用。体格や排泄量によってサイズもいろいろ、個別の快適性が大切にされていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・水分補給に努めたり、運動、腹部マッサージ等をしている。 ・排便のコントロールでは、オリゴ糖、カスピカイヨーグルト等にて、なるべく自然便になる様一人ずつ対応している。 ・疲労やストレス等が考えられる時は、リラックスできるよう居室でのゆっくりした時間を設けている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・半介助、又は全介助の入浴の方も一人一人ゆっくりと時間に追われることなく実施している。 ・希望時間・お湯の温度にも配慮している。 	衣服の着脱が面倒で「今日はお風呂パス」という入居者も見られ「汚れでは死なん」と否された。バスタイムとして、入浴時間に囚われず対応されているが、各棟6人の入居者に規定通りの人員配置では、食事の準備・排泄介助・プラス入浴介助となると、もし、徘徊活動が活発な人が居たらどうされるだろうか・・・と、気になった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・寝付けない時は、温かい飲み物や、一緒に添い寝したりして安心して休まれるよう支援している。 ・それぞれの生活リズムに合わせて本人の意思を尊重し休んで頂いている。なるべく夜間熟睡して頂けるよう、日中の生活リズムを整えている。 		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬紙を介護日誌に閉じ、確認するようにしている。又、薬の変更時等は、申し送りシートへの記入と薬袋の表示を徹底して行い、誤薬がないように努めている。 ・症状の観察を行い、医療機関との情報交換を行っている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の生活の中で折に触れ、その方の好みの音楽、ダンス、歌など楽しんで頂いている。 ・一人一人の興味のありそうな話題作りにより、会話を楽しんで頂いている。 ・洗濯物タタミ、干し、配膳、後片付け、塗り絵、食材切り等、家庭としての役割分担ができています。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが戸外へ行く時は可能な方には声掛けし、出来るだけ一緒に出掛けるようにしている。 ・買い物には一緒に出掛け、希望があれば好みのお菓子などを買うなど楽しまれている。 	近所には顔馴染のお店がいろいろ。訪ねてきた家族とお茶しに喫茶店へ、買い物へスーパーへ、島田美術館へは絵画鑑賞にも行ける。四季折々の外出行事も組み込まれているが、庭先での日向ぼっこ、職員と共に買い出しに、何気ない外出支援が組み込まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・日頃ご本人がお金を使用される機会はないが、屋外レクリエーションの行事等で買い物する場合は、預り金の小遣いの中からレジでの会計をして頂く様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご本人の希望があれば、職員により電話をかけて話して頂く。 ・又、ご家族からの電話時は、ご本人と話をさせていただくようにしている。 ・時には、電話を代行し希望に沿う様にしている。 ・自分で電話をかけ、思いを伝えられる方もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・住居内には利用者がくつろげるように配慮し、外庭には花壇の整備を行い、草木、花、野菜等季節に合った四季折々の環境作りにも配慮している。 ・西日が入る時は、カーテンで調節し、直射日光による刺激を防いでいる。	各棟とも、リビングには巨大なテレビ。食事用のテーブルはちょっと小さ目だが、角を取って丸くし、ぶつかってもリスクを小さくしている。ソファは各棟それぞれに異なり、入居者は自分の座る位置をきめているのか、馴染んだ姿で寛ぐ様子がみられた。室内は其々に、行事や外出の際の写真が貼られ、賑やかな雰囲気を作っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・テレビの前には全員が腰掛けられるソファがあり皆で談笑でき、庭に面した大きな窓の横にはベンチシートと空間があり、のんびり腰掛け外を眺めたりする逃げ場所ができています。 ・窓から見える夕陽を眺め、語り合われる一時もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅にあった絵画や、お位牌など持ち込まれている。 ・ご本人や家族の要望に応えられる居室作りを行い、危険物以外は持ち込みの制限は行っていない。	花一杯の部屋、好きな本を好きなだけ持参したという「自分だけの空間」が居室にある。筆筒やご主人の位牌、椅子と、私だけの居室作りに居心地良い空間の創出に、家族は勿論だが、スタッフの力添えが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレ内、及びフロア(共有部分)周囲に手すりを設置している。 ・生活区域はバリアフリーとしている。 ・トイレの表示は「お便所」と表示している。 ・ソファのクッション度合いや、ベッドの高さ、食卓テーブル・ダンスに物がわかるように明記している。		